

# 椿委員 説明資料

令和5年12月20日（水）

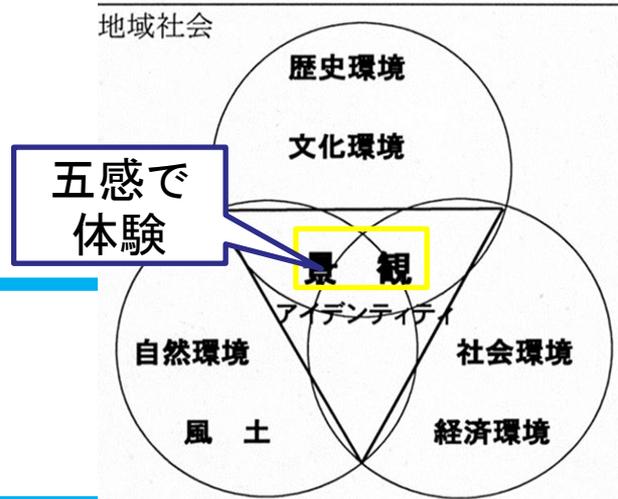
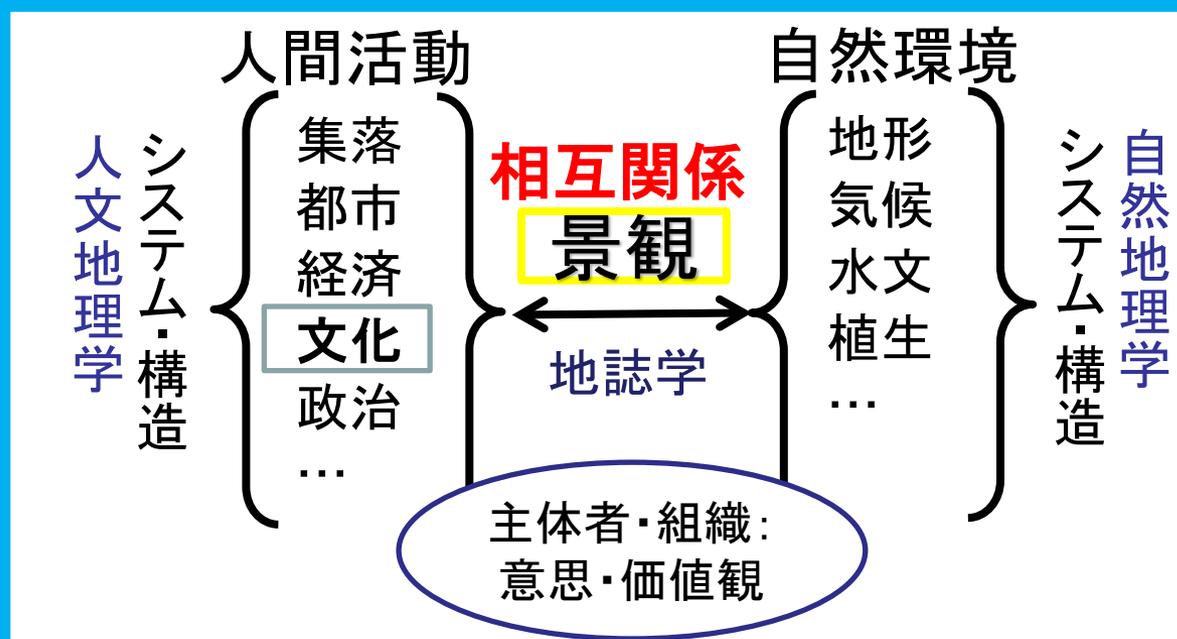
第1回 クールジャパン・アカデミアフォーラム

# クールジャパン推進戦略 第1回アカデミア・フォーラム

椿 真智子(東京学芸大) 2023年12月20日 於:内閣府

クールジャパンの種となる地域資源を探求し、地域住民と多様なステークホルダーの協働・連携による地域の魅力を持続的・自律的に創出・発信するしくみづくり

## 地理学Geography = 関係性



- 地域的特徴・固有性
- 地域的差異/共通性
- ロカリティ・日常の理解・探求
- ローカル/リージョナル/グローバルな関係性の理解
- 地球的課題の探求・対応

※現象の空間構造(分布):空間的視点  
※通時的・動的な変化:歴史的視点

時空一体

# 生活・歴史の舞台としての武蔵野台地とハケ



第1図 武蔵野の地形区分と水系

(1965年、関東ローム研究グループ)

出典) 東京学芸大学地理学会30周年記念出版専門委員会 (1982)『東京百科事典』国土地理協会、

## 武蔵野台地

武蔵野(高位)面

立川(低位)面

多摩川沖積低地

乏水性のため近世の新田開発まで原野・秣場・牧

国分寺崖線(ハケ)

府中崖線(ハケ)

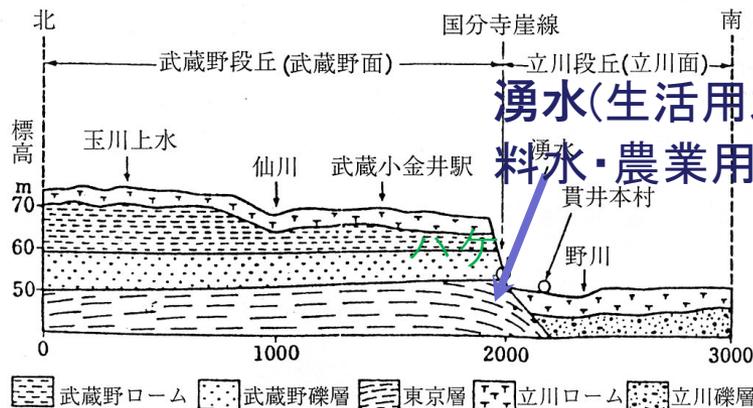
近世以前より集落立地・水田経営



出典:国分寺市史編さん委員会、1993

国分寺市付近の地形のようす

国分寺崖線は立川から始まり、国分寺・小金井・三鷹を経て世田谷へ続き延び、20<sup>+</sup>に及んでいます



第2図 小金井の地形断面

出典:「国分寺崖線景観基本軸 (tokyo.lg.jp)

## 国分寺崖線:東京都景観基本軸(2001年)



図1-3 本検討の対象区域

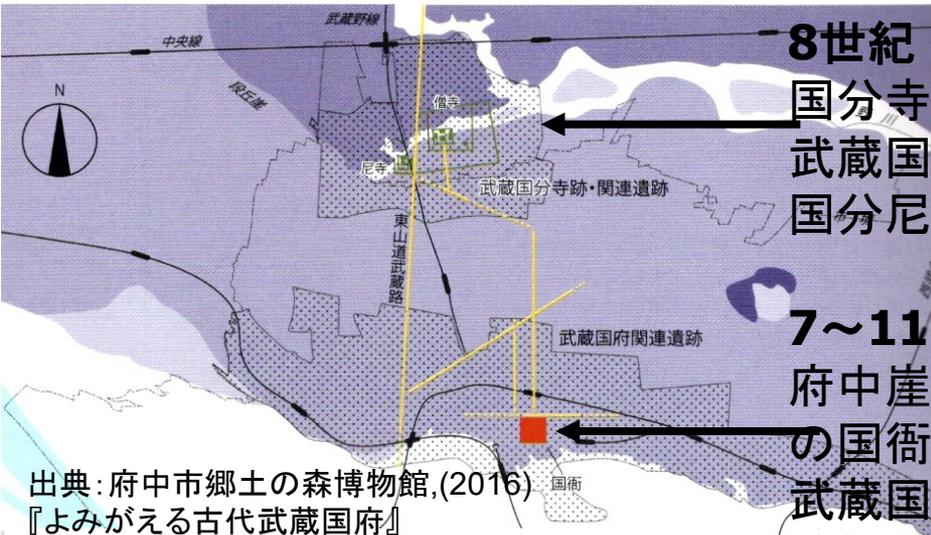
## 緑地・生物多様性



出典:世田谷区HP

# 生活・歴史の舞台としてのハケ

約3万年前・旧石器時代～縄文時代の住居跡(食物:米・雑穀、梅・桃、栗・胡桃、魚・貝など)



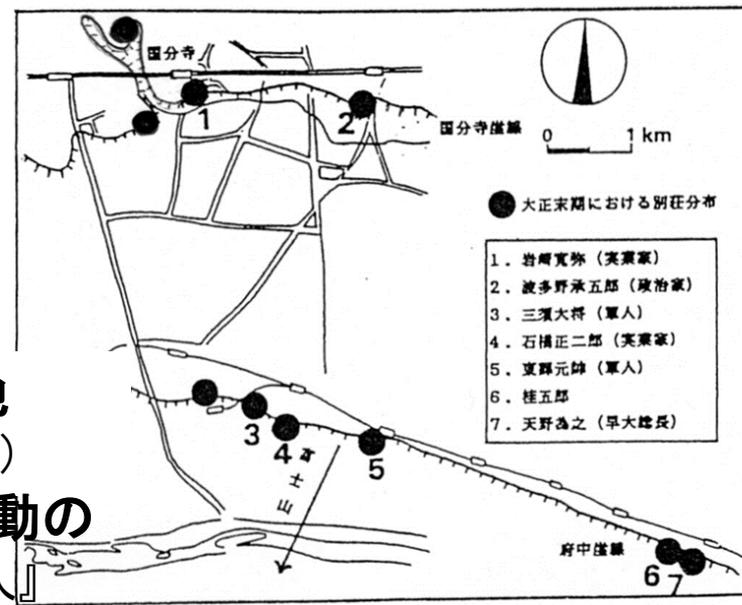
8世紀  
国分寺崖線:  
武蔵国の国分寺  
国分尼寺

7~11世紀  
府中崖線:武蔵国の国衙  
武蔵国総社「大國魂神社」

出典:府中市郷土の森博物館,(2016)『よみがえる古代武蔵国府』



古墳時代:横穴墓



谷保天満宮:  
10世紀初頭、菅原道真の三男・道武が父をまつたとされる。

ハケ周辺の別荘地  
(大正～昭和10年代)  
文学者・画家の活動の  
舞台 ex.『武蔵野夫人』

多くの寺社が分布;聖なる空間



# ◎地域住民へのアンケートにもとづくハケの魅力(42名・複数回答可)

- 湧水や小川の存在 32 緑や樹木の多さ 30
- 多様な自然環境(生態系) 26
- 眺望・眺めの良さ18 景観・風景 18
- 坂17 変化に富む地形12 ハケの上下の相違11

# ◎地域住民への聞き取り・アンケートにもとづくハケの経験・記憶

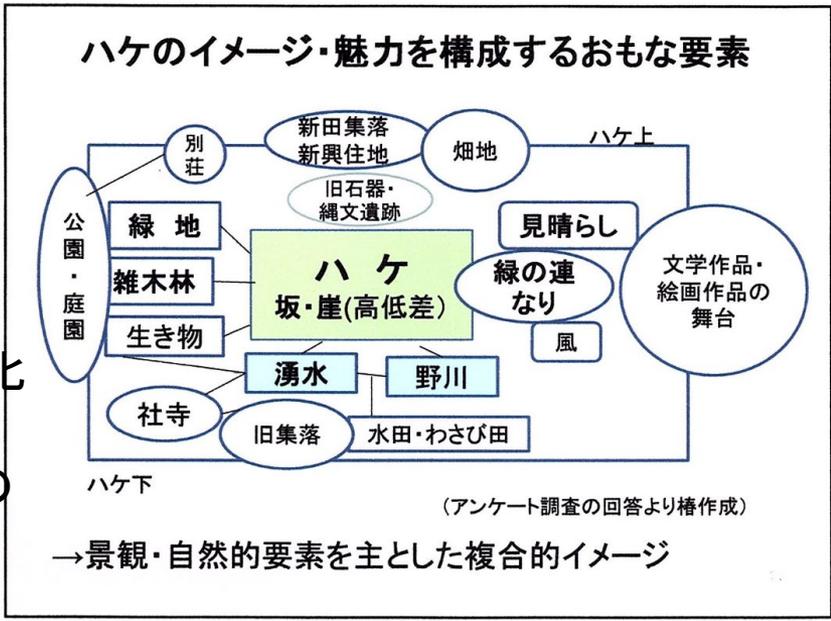
- ①地域史との連関: 景観・土地利用や生業、生活文化
- ②自然環境との連関: 水環境、生態系
- ③社会的連関: 時代・世代や立場による特徴・差異の

共有

## ○ハケに対する思い

「ハケは私の"産土"、ハケが私を育ててくれた」「普段は離れているが夏祭りには必ず来る。子どもたちも一緒、家族のふるさと」「40年以上続くハケの市民主導の祭りで世代がつながる」

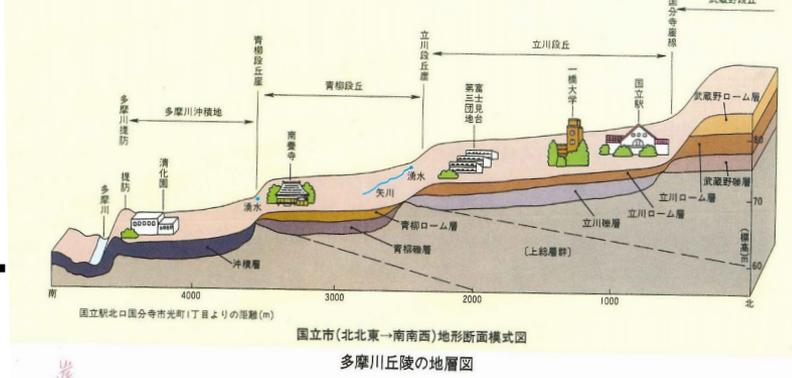
「ハケは生活や風景を形作る」「何も無いのが貴重。自分で想像したり寄り添う力を鍛えられる」



# ◎現代におけるハケの意味

1. 都市的環境・日常における自然との接点
2. 歴史資源、学びの場・対象
3. 多様な出会い・関係性: 時間(歴史)・空間(地域)・主体(人・生きもの)

→生活空間における地域・観光資源



出典: 社会科副読本改訂委員会(2002)「ふるさと国立」  
国立市教育委員会 中学生用の副読本

# ○今後のCJ推進戦略にむけた課題等

## 〈自己の問題意識〉

1. 自治体・行政界で分断されがちで多くの取り組みの成果・経験を共有、持続的に連携・協働・発信しうるネットワークやプラットフォームの構築
2. 世代間の相互コミュニケーションを促し、経験・意識を共有する機会・場づくり:地域の魅力と持続性や継承にむけた課題の検討
3. 生活者の視点や生活感覚・経験に裏うちされた地域資源・地域の魅力・ストーリーの発掘・発信

## 〈今後にむけた若干の提案〉

1. 人文(社会・経済・文化)現象とその基盤としての自然環境・風土とを関係づけた地域資源の複合的・重層的な意味・価値を探究、活用・発信の方法を検討。 ex.ジオパーク\*を中心とするジオツーリズムを、景観や食・伝統文化などと結びつけ、魅力ある地域資源として再構築できないか。

\*地形・地質など大地の遺産を保全するとともに、研究・教育・普及活動に活用し、ジオツーリズムをとおして地域の持続可能性に寄与

・行政界を超えた自然・景観・生活文化の特徴にもとづく地域資源の発掘・活用、情報発信に関する地域間ネットワークや広域的な協働・連携

・日本の自然環境・景観の多様性・固有性、独特の季節感・自然観とそれに根差した生活・伝統文化の再認識

・地球環境問題・防災等、人類共通の課題に関する経験や知見・学びの共有

2. 多様な立場・世代の人びとが地域資源の意味・価値を認識し、保全・継承や活用を議論する機会・場の構築+テーマ・ストーリー性、交流、“居心地良い”空間づくりやしかけ

3. “地域の歴史や暮らし・生活文化に根差した”地域資源として公的に認定され保全活動等の対象となった「日本の音風景百選」(1996年,環境庁)や「かおり風景百選」(2001年,環境省)等をいかせないか。